

7月30日

ひとり親家庭の支えに

寄付



㈱白金製作所（東京都大田区）の常務取締役であり、㈱東北白金奥州工場（江刺愛宕）の常務でもある鈴木隆さんから、奥州市の福祉に役立ててもらいたいと200万円の寄付をいただきました。市では、鈴木さんの意向に沿って、ひとり親家庭の支えとして活用させていただきます。

8月2日

佐藤アキノさん 100歳
(江刺伊手)

百歳



江刺伊手に生まれ、23歳で故・勝雄さんと結婚。タバコの栽培など農業に精を出し、4人の子どもを育て上げました。温泉に行くのが好きで、以前は毎週のように焼石クアパークひめかゆに通ったといいます。記念品を受け取ったアキノさんは「ありがとうございます」と笑顔を見せました。

8月3日・4日

白衣の仕事をお寺で体験

イベント



NPO法人シェイクス主催「白衣の寺子屋～お寺でお仕事体験～」が江刺の興性寺で行われました。子どもたちにさまざまな体験をしてもらおうと企画され、市内の小学生らは、東北大学の先生から研究者の仕事や地震発生の仕組みを学んだほか、歯型技術を用いた指型づくりなどを体験しました。

このイベントは市民提案型協働支援事業補助金を活用して開催されています

8月6日

岩手大学で鋳物づくりを体験

イベント



市内中学生12人が参加し、奥州中学生ものづくりセミナー in 岩手大学が開催されました。まずは鋳物の歴史や最新の研究内容を勉強。その後、理工学部の先生や学生の指導を受けながら、砂型と呼ばれる型をつくり、そこに溶かしたアルミニウムを流し込んでペン皿を完成させました。

8月10日

「投打猛進」掲げ、大谷選手へエール

市政



米大リーグのエンゼルスで活躍する大谷選手を応援しようと「大谷翔平選手ふるさと応援団」が設立されました。市、奥州商工会議所、市体育協会など10団体が構成され、背番号「17」にちなむ統一行動、各団体が実施するイベントへの協賛・後援などの事業計画が協議されました。

8月14日

郷土出身力士に会場沸く

イベント



市総合体育館開館20周年記念「夏巡業大相撲奥州場所」が同館で開催され、人気力士を一目見ようと市民ら約2,800人が訪れました。力士たちは記念撮影やサインに応じてファンと交流。水沢出身の漣が勝ち星を挙げると、ひととき大きな歓声と拍手が送られました。

8月5日

真夏の衣川に響く笑い声

イベント



国民宿舎サンホテル衣川荘で衣川ふるさと寄席（同荘・桂枝太郎後援会主催）が開催され、枝太郎師匠のほか、立川談笑師匠、お笑いコンビ・いつもここから、林家きく麿師匠が出演しました。衣里小3年の菅原太智君は「この寄席を聞くのは3回目。毎回とても面白く、次回も楽しみ」と目を輝かせました。

8月5日～10日

若者の地元就職増について幅広く提言

市政



市は、早稲田大学公共経営大学院のフィールドワークを受け入れ、共に課題研究に取り組みました。今回は「大学生に市内企業の魅力を伝え、地元就職者の増加に繋げるための取り組みについて」をテーマに、市職員2人を加えた10人が2班に分かれて調査・提言などを行いました。

8月6日

地域の個性がひかり輝くまちづくりに向け始動

市政



30地区振興会長からなる「奥州地域会議」の初会合が開かれました。同会議は市と各地区の連携を深め、地域コミュニティ活動の推進を図ることを目的に設置。小沢昌記市長が委嘱状を交付し、意見交換では常盤地区振興協議会による人材育成の取り組みなどが紹介されました。

8月18日

最先端科学に興味津々

イベント



いわて銀河フェスタ2018が国立天文台水沢VLB観測所と奥州宇宙遊学館で開かれ、来場者は初公開のスパコン「アテルイII」見学など天文学に親しみました。ペットボトルロケット打ち上げ体験に参加した小澤悠仁くん（4歳）は「空気を入れるのも取りに行くのも楽しかった」と話しました。

8月20日

川面に映る幻想的な燈籠のともしび

イベント



第5回奥州乙女川燈籠流しが乙女川特設会場で開かれました。一時途絶えていたものの、平成26年に有志が復活させ、毎年8月20日に開催されています。御詠歌奉詠、法要に続き、読経の音が響く中、約200個の燈籠と約20台の舟が流されると、訪れた人は流れゆくともしびに手を合わせていました。

8月28日

鈴木松子さん 100歳
(衣川古戸)

百歳



前沢古城に生まれ、18歳で故・一亮さんと結婚。4男をもうけ、孫11人、ひ孫6人に恵まれています。草花が好きで花壇づくりを楽しみ、婦人会の会長を務めるなど地域活動にも励みました。長寿の秘訣は好き嫌いを何でも食べることで、今でも24本の歯で食事を楽しんでいます。